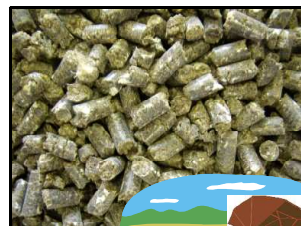


研究課題名	規格や用途に適応したペレット化肥料等の開発 (地域バイオマス資源活用技術開発事業)		
予算区分	県単 (170千円)	担 当	経営技術研究室 環境研究グループ
研究期間	継 続 (平成25～27年度)	協 力 関 係	株式会社クラレ 農業研究所 環境研究室
研究目的	<p>近年、県内の農耕地においては、肥料の多用等により土壌成分のバランスが崩れ、生産性の低下が懸念されている。</p> <p>一方で、有機質肥料の活用促進も土づくりの観点から重要であるが、一般的な有機質肥料は化成肥料に比べると肥料成分の含有量が著しく低く、単位面積あたりの散布量が多くなるため、散布に労力とコストがかかる欠点がある。</p> <p>そこで、堆肥等のバイオマス資源を散布の容易なペレット状に圧縮成型した新たな肥料の利用促進を図るため、土壌改良材であるポリビニルアルコール（以下、PVA）をペレット成形時の結着剤として活用するなどして、製造効率と保存性等を高めた新しい肥料の製造及び利用技術を確立する。</p>		
全体計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 PVA等の結着剤を活用した利用しやすいペレット堆肥の開発 2 ペレット堆肥の利用技術の開発 		
研究対象	全畜種	専 門 部 門	畜産環境
<p>○ 本年度試験のねらい</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 PVA等の結着剤の種類や添加量による製造効率等の改善効果を検討 2 ペレット堆肥の肥料成分の評価や簡易栽培試験による安全性の評価 <p>試験 PVA等の結着剤を活用したペレット肥料の製造技術の開発 (試験の内容) PVA等の結着剤を使用して製造したペレット肥料の製造効率や肥料成分等の品質を評価する。</p> <p>○ 前年度までの成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 吸湿性が低いPVAを鶏ふん堆肥に重量比0.1～2%混合してペレット化したが、対照区と比較して製造歩留まり等に差は認められなかった。 2 PVAを混合したペレット堆肥を20℃で保管したところ、保管中に発生するアンモニア濃度に大きな差はなかったが、一部で臭気指数相当値が低下した。しかしながら、30℃で保管した場合にはいずれも大きな差はなかった。 3 PVAを混合したペレット堆肥を25℃で180日間保存して保存前後の物理性・化学性を調査したが、PVAを混合しなかったもの比べて大きな差はなく、いずれも良好な保存性を示した。 <p>○ 協力関係</p> <p>株式会社クラレ：技術的助言及び資材提供 農業研究所：研究成果の情報共有等</p>			

規格や用途に適応したペレット化堆肥等の開発 (地域バイオマス資源活用技術開発事業)

【背景】

有機栽培等に欠かせない家畜ふん堆肥のペレット化により施肥管理の省力化が期待されるが…



～ペレット堆肥普及上の課題～

- ①原料の粒径が不均一なため製造歩留まりが低い！
 - ②成型後の乾燥・袋詰め工程や保管・輸送時に崩壊しやすい！
- 製造コストの上昇や散布時の粉塵・臭気の発生！

そこで…

ポリビニルアルコール等の結着剤を混合した低コストで利便性の高いペレット堆肥の製造方法を検討！

【実施内容】

- ・結着剤を活用したペレット肥料の製造技術の開発
→結着剤の種類や混合方法による製造効率等の改善効果を検討

【成果の活用】

- ①製造効率向上による**製造コストの低減！**
- ②ペレット堆肥の普及による有機栽培等の肥培管理の省力化
→**おかやま有機無農薬農産物等の生産性アップ！**

